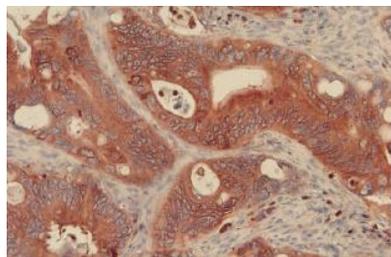


結腸癌周囲間質組織におけるVEGF165bの発現と予後との関連についての検討

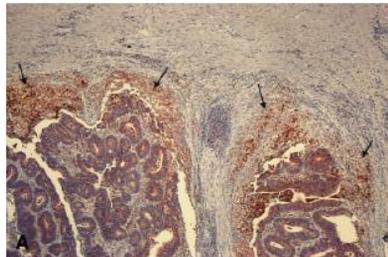
(外科学第一講座 大学院生 田山 誠、准教授 古畑智久、
大学院生 稲福慶子、助教 沖田憲司、教授 平田公一)

血管新生因子であるVEGFは大腸癌の予後不良因子ですが、癌の組織を詳細に観察すると、癌細胞だけではなく周囲の間質もVEGFを発現していることがあります。私たちの研究では、間質でVEGFを発現している症例は予後が良好でした。その理由を検討すると、癌細胞では血管新生を促進するVEGF165を発現していましたが、間質では血管新生を抑制するVEGF165bも発現していることが分かりました。この間質におけるVEGF165bの発現は新たな予後因子となる可能性があり、今後の治療に寄与するものと思われます。

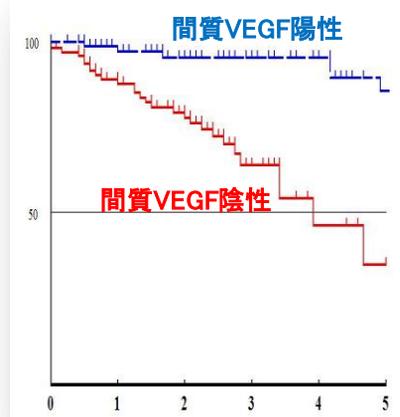
腫瘍細胞



間質細胞



結腸癌Stage2,3の無再発生存期間



VEGFは腫瘍細胞だけではなく、間質細胞でも発現していることがある。

間質でVEGF-Aが発現している症例は予後が良い

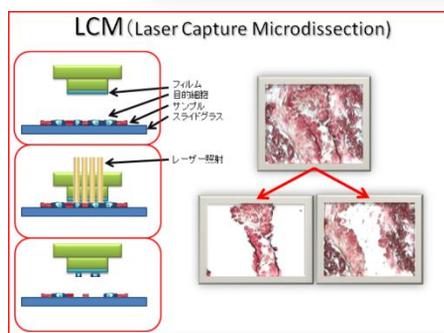


- なぜだろうか？
- 間質で発現するVEGFは機能が違うのだろうか？

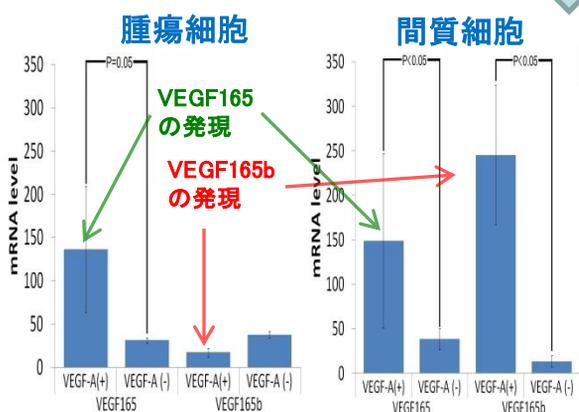
VEGF165bはVEGF165と同様にVEGFR-2に結合するが活性化せず、結果として血管新生を抑制することが明らかになってきた。



間質で発現しているVEGFは、VEGF165bではないのか？



LCMを用い、腫瘍細胞と間質細胞を分離し検討！



VEGFの発現と癌周囲の平均血管密度との関連



- 腫瘍細胞はVEGF165のみを発現している。
- 間質細胞はVEGF165及びVEGF165bの両方を発現している。

- VEGF165bの発現量が少ない場合、平均血管密度はVEGF165の発現量により増減する。
- VEGF165bの発現量がある程度になるとVEGF165の発現量に関係なく平均血管密度はほぼ一定に抑えられる

・間質細胞におけるVEGF165bの発現は新たな予後因子となる可能性があり、今後の治療に寄与するものと思われる。